D 15

大正期住宅改良運動における女子教育家の果した役割

――井上秀の住宅改良に対する主張――

日本女大家政　小澤淑子

目的・方法　大正期の生活改善・住宅改良運動においては、家政学を中心とする女子教育家が重要な役割を果たしていた。住宅改良会の懸賞設計の審査員や生活改善同盟会の住宅改善調査委員を務めた井上秀もその一人である。当時の住宅改良の目的の一つに共同住宅の建設が挙げられているが、井上はその具現化の初期の例である櫻楓会アパートメントハウスの建設に直接関与しており、住宅改良を進めた女子教育家の中でも特に注目すべき存在である。本報告は、井上の住宅改良に対する主張を井上の著書や当時の新聞・雑誌の記事から明らかにすることを目的とするものである。

結果　井上は生活改善の目的の一つとして、婦人の社会的活動を容易ならしめることを挙げ、そのためには和洋の二重生活の廃止等による生活の能率化・合理化が必要であるとし、生活改善の中でも住宅の改善が重要であると主張した。大正中頃までは、家具什器の改良や主婦室等住宅各部の改良を提案するに止まっているが、大正9年には洋風住宅こそ住宅の理想であるとし、中流洋風住宅の具体象を示し、現実的洋風化の方法として在来住宅への椅子座の導入を提案した。大正末期頃からはこれらに加え、住宅におけるプライバシーの重要性や共同住宅の必然性等についても言及し生活改善の一つの方向として生活の共同化を位置づけた。井上のこうした主張の背景には、アメリカ留学時に井上が学んだアメリカの家政学が少なからず影響を及ぼしていたと考えられる。

註1）木村徳国「日本近代都市的独立住宅の成立と展開に関する研究」北大工学部研究報告No18～21

註2）拙稿「櫻楓会アパートメントハウスについて　その2　建設の背景」日本建築学会関東支部昭和62年研究報告、